

手洗いによるノロウイルス除去効果に関する実験結果

以下のとおり、ノロウイルスを除去するために効果的な手洗いの方法、薬剤の種類等を検討した。

目的	検討項目	方法	成分	結果
洗い方の検討	流水すすぎ	15秒間流水によるすすぎのみを行った。	/	手指に付けたウイルスが、100分の1程度に減少した。
	もみ洗いの時間、回数	石けんを使ったもみ洗いの時間を変えて比較した。	/	石けんによるもみ洗い60秒、または、(石けんによるもみ洗い10秒 + 流水すすぎ15秒) × 2回 は、有効であった。
薬剤等を使った手洗いの検討	薬用石鹼(ハンドソープ)	市販の薬用石鹼(ハンドソープ)3種を用いて手を洗った後、15秒間流水ですすぎを行った。	ヨード化合物	いずれの成分においても、感染価、遺伝子量ともに、流水すすぎのさらに10分の1程度に減少する傾向が見られた。 ヨード化合物では、ウイルス不活化効果も推定された。
			トリクロサン	
			フェノール誘導体	
消毒薬	市販の手洗い用薬剤を用いて洗った後、流水ですすぎを行った	消毒用アルコール	いずれの成分においても、流水による場合と比較して、更なる洗浄効果は認められなかった。	
		クロルヘキシジン		
		第四級アンモニウム		
強酸性電解水	もみ洗い、すすぎの際に強酸性電解水を用いる。	/	一定量の強酸性電解水によりもみ洗いを行い、流水(水道水)によるすすぎを行った場合不活性化効果は不十分と思われた。強酸性電解水の流水によるすすぎを行った場合にはウイルスの不活性化効果がみられ、手洗いの際にハンドソープを併用することにより除去効果が高まる傾向がみられた。	
洗い以外の方法の検討	速乾性消毒剤	市販の速乾性消毒剤を手指に擦り込んだ。	クロルヘキシジン	明確なウイルス不活性化効果は認められなかった。
			第四級アンモニウム化合物	明確なウイルス不活性化効果は認められなかった。
			ヨード化合物	ウイルス感染化の減少が認められた。
	ウエットティッシュ	市販のウエットティッシュを用いて手指を拭いた。	アルコール + 第四級アンモニウム アルコール + グルコン酸 安息香酸 アルコール + PHMB(ポリヘキサメチレンピグアナイド)	製品の成分によりウイルス除去効果に差がみられ、処理後のウイルス生残率は流水すすぎのみの場合よりも高いものと同程度のものがみられた。